

当院の細胞診検査（細胞検査士）の教育及び精度管理について

◎平川 功二¹⁾

大分大学医学部附属病院 病理診断科・病理部¹⁾

当院における細胞診検査（細胞検査士）の教育及び精度管理について簡単に紹介する。

当院は8名の臨床検査技師が在籍し、うち5名が細胞検査士、2名の臨床検査技師が細胞検査士の資格取得を目指している。資格取得に向けては、部署内で各領域（婦人科など）の基礎的な教育を実施し、受験対策として、領域別に典型症例・スクリーニング問題・同定問題など数多くの症例を準備しており、各自が勉学に励んでいる。

資格取得した職員は、ISO15189に則り当院のSOP・MNLの周知・教育を行っている（当院では、細胞診検査における全ての業務を細胞検査士のみで行っている）。文書上の教育訓練の実施後、実際の検体処理の方法やスクリーニングにおける注意点など教育担当者が実技指導を行っており、細胞診検査における技術習得状況は、スキルマップを用いて管理している。細胞診断業務の実施教育については、資格を取得して間もない細胞検査士は、必ずファーストスクリーニングを担当し、教育訓練の終了した細胞検査士がセカンドスクリーニング、10年以上の経験のある細胞検査士がトリプルスクリーニングを行うよう新人細胞検査士のスクリーニング能力の状況を把握しやすい体制を敷いている。教育訓練の終了は、個人差があるものの資格取得後おおむね3年となっている。

その他、細胞検査士の教育として、3か月に1度症例検討会を実施している（主に組織検査にて証明の取れている症例）。また、職員間の目合わせ確認として、細胞検査士及び細胞診専門医を対象とした試験も行っている。今後、症例検討会の回数を増やすことを検討している状況である。